

# ～店として市民としての思い～

## お店「ふくらく」30年目で語れる今…

今年で横浜から移転して30年目、昔ながらの雰囲気が残っているふくらくさんにお話を聞きました。  
なぜ横浜からこの地へ移店したかはここに来る前は横浜で店を出しており繁盛していたが  
今ではお年寄りの憩いの場となっている。  
災害時の事を考えたときにこの千本桜がよかった  
だから千本桜に来た。



## 30年前と今の景色

今のこの町には活気が足りないと語る 昔とは違い人も少なく 元気もない 声もしない  
やはり昔より活気が足りない 千本桜の桜が満開になる頃には人が集まる  
けれどそれも一時的な花見客であり桜が散るころにはその活気ある声も散っていく

昔はバイトを雇ったりしてフル稼働していたが金銭的にも体力的にも持たない。  
今この場所がお年寄りの憩いの場に形を変えてもこのお店は人々を笑顔にしている  
この店はいい場所だ。

## これから

今の千本桜商店街には多くの食べ物などを取り揃えている総合商店がほしい。  
ここからは手軽に買い物ができない、なぜなら買い物をするには坂を上がらなければならない為  
バスに乗らないといけない。しかも八百屋も服屋も魚屋もないため生活にも苦労することがある。  
だからこそ色々な店がほしい。  
これからの一番の楽しみはお孫さんの成長だそうで  
お孫さんとの交流のためにもそういう場所は大切だろう。

# 全員が持つ想い

今店が上手くいくとか商売が成功するとかではなく繋がりそうで繋がらない  
町の人々の心 体力の限界で出来ないといえ、この町にも活気はほしい。

お店の人はこう言ってくれた…

「これからの時代をつくるのは君たち」

静まり返り絡まった糸のような商店街 しかしそこには確かに  
素晴らしい場所が残っていた。

どこか懐かしいニオイ、やさしくなでるように包み込んでくれるような空間

このお店を支えあうご夫婦の姿はどの桜よりも美しかった。

その笑顔 商店街の明日…10年後を守るのは僕らなのかもしれない

それを実感する1日だった。